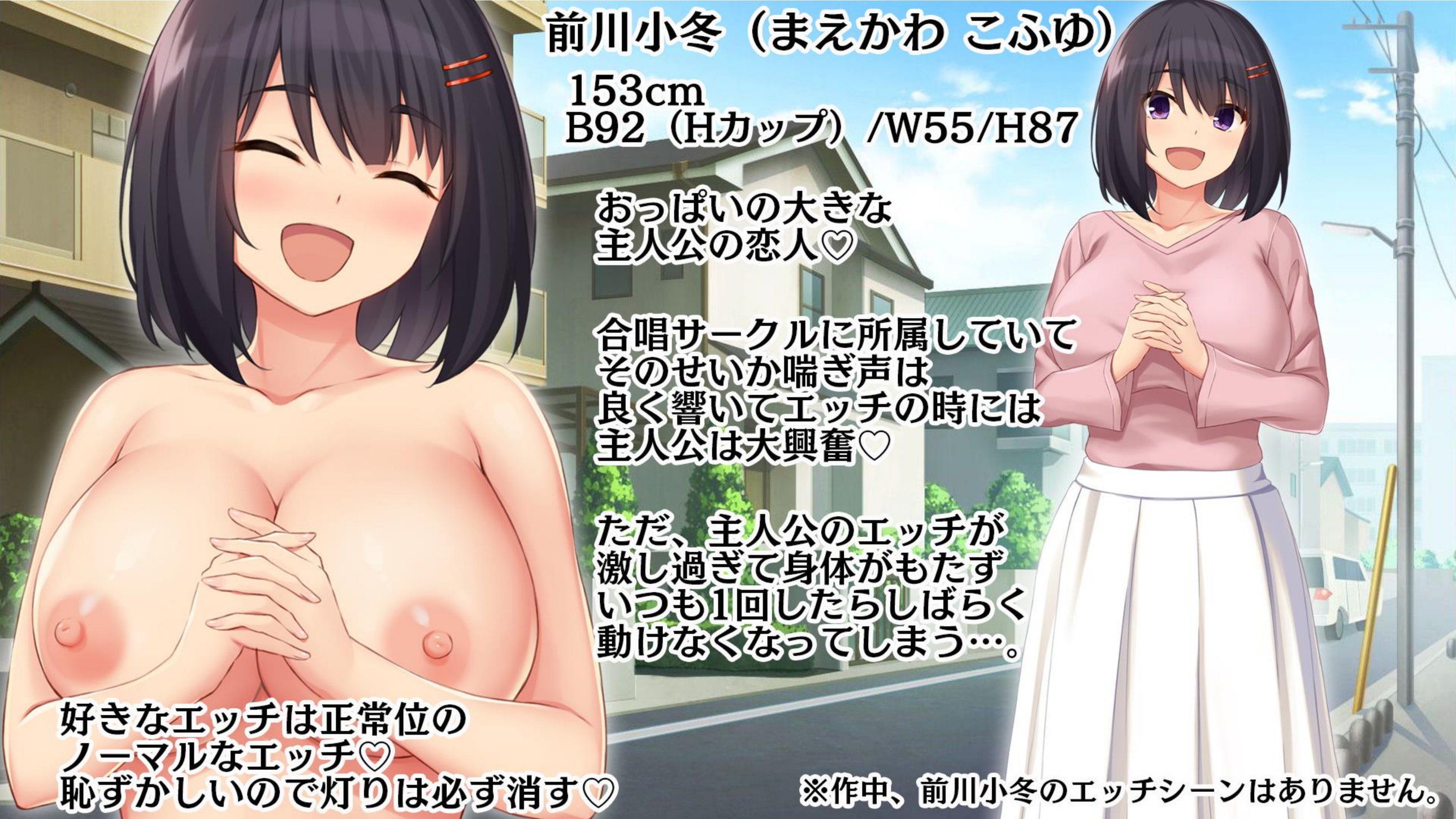
STUDIO
PRODUCTS
彼女に会えない3日間
欲求不満な俺と彼女の女友達の
秘密のハメまくり性活
成人向けCG集
基本CG 11枚　本編218枚

澤木夏美（さわき なつみ）
170cm
B83（Cカップ）/W57/H84
主人公と小冬の共通の友人。
おっぱいは小冬の方が大きいが
形と感度なら負けていない♡
主人公のおち●ち●と
夏美のおま●この相性は抜群♡
一度挿入したら抜け出せない♡
恋人の小冬がいない3日間
主人公がムラムラすれば
朝昼晩いつでも何度でも
喜んでハメまくる♡
好きなエッチは
キスをしながらするエッチ♡
また、大人のおもちゃを
使ったエッチにもハマっている♡


前川小冬（まえかわ こふゆ）
153cm
B92（Hカップ）/W55/H87
おっぱいの大きな
主人公の恋人♡
合唱サークルに所属していて
そのせいか喘ぎ声は
良く響いてエッチの時には
主人公は大興奮♡
ただ、主人公のエッチが
激し過ぎて身体がもたず
いつも1回したらしばらく
動けなくなってしまう…。
好きなエッチは正常位の
ノーマルなエッチ♡
恥ずかしいので灯りは必ず消す♡
※作中、前川小冬のエッチシーンはありません。

講義はこれで終わりだ
明日から長期休暇に入るが
あまり羽目を外しすぎるなよー
…はあ
夏の長期休暇前の
最後の講義が終わった。
本当なら喜ぶところだが
俺は明日からのことを
思うとまったく喜べずにいた。
オーン
オーン

あれ？
どうしたの陽太？
なんかテンション低くない？

小冬
なんか知ってる？

えっとね…
私が明日から三日間
サークルの合宿に
行くんだけど

その間
私と会えないのが
寂しいんだって

えっ
たった三日間会えないくらいで!?

三日間もだ！恋人と三日間も離れるんだぞ？

あはは
陽太くん大袈裟だよ

はぁ…
明日から俺はいったいどうしたらいいんだ…

二人は呆れた顔で俺を見る。
恋人と三日間も離れるこの寂しさ、
少しは理解してくれても
いいんじゃないだろうか？
二人とも大学からの付き合いだが
同じ経済学科で一年以上も
一緒にいるというのに…

澤木夏美
明るくサバサバとした性格で
男女問わず仲の良い友人が多くいる。
俺もその内の一人だ。
彼女とは入学当初から
よく講義が被ることもあって
大学の一番親しい友人といっても
過言ではない。
課題を出された時や
試験前には互いに協力して
なんとか単位をとっている。

前川小冬（まえかわこふゆ）
合唱サークルに所属している
おっとりとした癒し系女子。
そして今年の四月から
俺と恋人関係にある。
ちょうど学年が上がる時に小冬から
告白をしてきて俺はすぐに了承した。
可愛らしく、優しい小冬と付き合えて
俺の大学生活は色鮮やかになった。
そして夜の性活の方も…

胸は周りの女性と比べて大きく
いつもエッチをする時には
その巨乳をつい夢中で揉んでしまう。

それに合唱をやっているせいか
喘ぎ声がめちゃくちゃエロくて
エッチの後も興奮が治まらない。

ただ俺のエッチは激しいらしく
小冬はエッチの後は力尽きてしまう。

無理はさせられないので性欲を抑え
連続ではしないようにしている…

ぷるんっ

夏美と小冬は大切な友人と恋人で
俺の大学生活に欠かせない二人だ。

はぁ…

いっそ今からでも
合唱サークルに入るか

陽太が合唱？
いやいや無理でしょ

前にカラオケ行った時なんて
頭が痛くなるくらい
音痴だったじゃん

じゃあ俺はこの三日間
どうしたらいいんだ！

どうしたらって…
あっ、そうだ！
明日、陽太の家でさ
お酒でも飲もうよ！
飲んだら少しは
気が紛れるでしょ？
ねえ小冬
明日、陽太の家で
飲んで良い？

うん、いいよ！
夏美ちゃんと一緒にいれば陽太くんも寂しくないだろうし
オッケー それじゃあ陽太 明日は飲むわよ！

俺の意見を何も聞くことなく
明日は夏美と飲むことが
決まってしまった。
まあ気心知れた夏美と酒でも飲めば
寂しさを少しは紛らわせそうだ。
こうして小冬がいない
三日間が始まろうとしていた。

翌日

それじゃあ
そろそろ行くね！

二人とも飲み過ぎないようにね
わかってる夏美に飲まされ過ぎないよう気を付ける
あはは
そんなことしないってー
楽しくなってお酌しちゃうだけだよ

ふふっ
とにかく飲み過ぎないよう
気を付けてね
それじゃあ
行ってきます！
いってらっしゃい！

俺と夏美は小冬を見送ると
早速酒とおつまみを買いに行った。

俺たちは二人とも酒好きで
スーパーの袋がパンパンに
膨らむほど酒を買い込んだ。

家に帰るとまだ日は高かったが
酒好きの俺たちは
すぐに酒盛りを始めた。

途中テレビゲームをしたり
映画を観たりしながら楽しく酒を飲み
気付けばすっかり夜になっていた。

あはは
ほらほら陽太
まだ飲めるでしょ？

いや
さすがに
もう飲めねえよ

ふう…

床に寝転がって大きく息を吐く
飲み始めて五時間以上は経過している。
俺はもう飲めそうになかったが
夏美はまだまだ飲めるようだ。
ソファに座りながら
新しい缶チューハイを開けようとする。

まったく
もう飲めないなんて
情け…あっ

ぱちゃっ

開けたばかりの缶チューハイが
手から落ちてしまい中身が
夏美の服にかかる。

まだ飲めるとは言っても
さすがに酔いは回っているようだ。

うわー最悪
服びちょびちょ…

おいおい何やってんだよ
何か拭くもの…

俺は起き上がるとタオルを
取りに行こうとしたが
直後の夏美の行動に呆気に
とられて動けなくなってしまった。

うー
べとべとして気持ち悪い！
は？
ガばっ！

ぐっ

うん…しょっと…

ふうっ…
スッキリしたー

おいっ

夏美っ
何してんだっ！

酒がかかって濡れた服を
夏美はためらうことなく脱いでしまった。
そのためブラに覆われた胸が露わになる。

ぽよん

酔っ払ってるからって
あまりにも無防備過ぎるだろ！

…だけど
やっぱりこいつも女なんだな

ゴクッ

サバサバとした人柄のせいで
あまり意識することはなかったが
ブラに覆われた胸の膨らみを見ると
夏美も女性なのだと意識してしまう。

小冬の方がデカいが…

色白で綺麗だ
それにすごく柔らかそうで…

じ…

ふふふっ…

え？

私のおっぱいに熱い視線向けちゃって…
そんなに気になるの？
ニヤ
ニヤ
ち、違うっ！
突然脱ぐから驚いただけだ！

あはは
無理しちゃってぇ
小冬よりは大きくないけど
形は結構いいでしょ？
少しくらい
触ってもいいよ？
ほらっ
ぐぃっ

ぷにぷに
ぷる

ほらほらっ
遠慮しなくていいんだよ？
大丈夫
小冬には内緒にしておくからさ
ドキドキ
うっ
…触りたい
触るだけなら
…いいよな？
本人が許可
してるんだし…
ゴクッ
おっぱいに引き寄せられるように
俺は夏美に近付いていく
そして―

ぴくっ
んあ…っ
なぁ♡
声、エロっ！
あの夏美が
こんなエロい声を
出すなんて…

ど、どう…？
私のおっぱいの
揉み心地は…？
ああ…
柔らかくて…弾力もあって…
揉んでて…気持ち良い
むにゅ むにゅ
むにむに
むにむに
へえ…
それならもう少しだけ
揉んでていいよ
んっ
陽太に揉まれてると
なんか気持ち良いし…

気持ち良いって…
感じてるのか？
さっきから必死に声を
抑えてるっぽいし…
っていうか感じ過ぎだろ
小冬より感度良すぎないか？
夏美がこんなに
エロい奴だったなんて…
どきどき
むにむに
んっ
あんっ
むにゅ
むにゅ
むにむに

はぁ…ふぅ…
もっと…
もっとぉ…♡
陽太…んんっ！
気持ち、良いよ…
むにむに
むにゃ
むにゃ
ひゃッ
んッ
むにむに
むにゃ
っ！

もっと揉んで欲しいと
聞いたことのない声音で
夏美が訴えてくる。

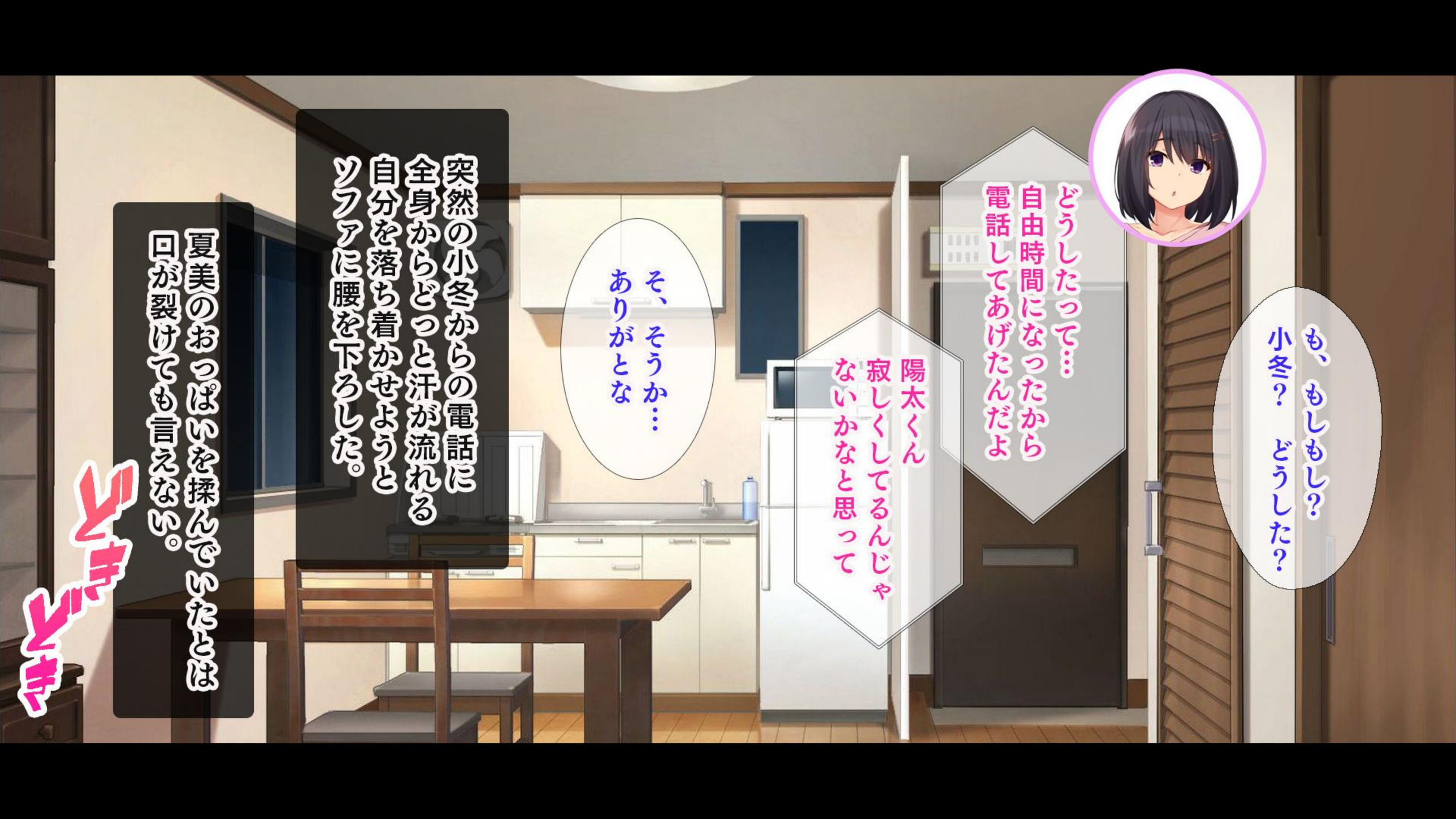
それに刺激されて俺のチ●ポは
すっかり勃起してしまった。
このまま押し倒したい…
そんな欲望が湧き上がってきた。

ドクン

だが―

んっ
むにゅ
むにむに
あんっ
あんっ
あっ
むにむに
むにゅ
むにゅ

ブブブブ!!
!!
俺のスマホが唐突に鳴り出す。
それは着信を知らせるもので画面を見ると小冬の名前が表示されていた。
慌てて夏美のおっぱいから手を放して電話に出る。


も、もしもし？
小冬？　どうした？
どうしたって…
自由時間になったから
電話してあげたんだよ
陽太くん
寂しくしてるんじゃ
ないかなと思って
そ、そうか…
ありがとな
突然の小冬からの電話に
全身からどっと汗が流れる
自分を落ち着かせようと
ソファに腰を下ろした。
夏美のおっぱいを揉んでいたとは
口が裂けても言えない。
どきどき

飲み過ぎてない？
そ、そんなに飲んで…っ！
ぎくっ
？どうしたの陽太くん？
い、いやっなんでもない…んんッ
突然全身を駆け抜ける快感に上手く声が出せなくなる。
その原因はわかっている小冬と会話をしながら視線を股間に向ける。

んちゅ…
れろぉ…
私のおっぱい揉んで
こんなに大きくしちゃって…
ふふっ
ぢゅるっ♥
ぢゅっ
ぢゅっ
ぢゅるっ
チロチロと舌で刺激しながら
夏美は楽しそうに笑う。
酔いと小冬からの電話による動揺で
すぐに気付くことができなかった。

おい夏美っ

あっ夏美ちゃんいるの？
代わってー

えっ！
あ、ああ…

ほら
小冬が代われって…

ちゅるる

ぢゅるっ ぢゅるっ

俺がスマホを差し出すと
夏美は受け取らずに画面に触れて
スピーカーをオンにした。

小冬？
合宿お疲れー
そっちも
陽太くんの相手お疲れ様
私がいなくて寂しいとか
グチグチ言ってない？
ふふっ
大丈夫だよー
もう元気
いっぱいで…
ちゅるっ
じゅぽっ
ぷちゅっ
ぷちゅっ
ちゅるっ
ちゅるっ
じゅぽっ

そっかー良かったー

夏美ちゃんありがとうね

私は何もしてないよー

じゅぱっ

じゅぱっ

じゅぱっ

じゅぱっ

じゅるっ

じゅるっ

夏美何を考えてんだ？

はぁはぁ

こんなことしてるのがバレたらお前だってマズいだろ？

相当酔ってるのか…？

酔ってるにしてはいい塩梅でチ●ポを刺激してっ

ねえ…ねえったら！
陽太くん聞いてる？

えっ…？

お土産は何がいいって
さっきから聞いてるんだけど…

ぢゅるぢゅる

ぢゃっぢゃっ

じゅぱっ

悪い…酔いが回ってきたのか
ちょっとウトウトして…

じゅぱっ

ぼんっ

声を出さないように
気を付けてね

は？

빨아줘♡

うあっ！
陽太くん!?どうしたの！
わ、悪い驚かせてっ
缶を倒しちまって酒がちょっとこぼれて…な
ぢゅぱっ
ぢゅぱっ
ぢゅぱっ
ぢゅぱっ
ぢゅぱっ

なんだー
脅かさないでよー

わ、悪い…

んっ♡

んふぅ♡

くぁ～

これ…ヤバいっ
口ん中…
気持ち良すぎるだろ！

チ●ポ甘噛みされたうえ
メチャクチャ吸われて…

くううっ…もうっ！

ちゅぱっ
ちゅぱ

ぢゅぱ

ぢゅっ ぢゅっ

ぢゅぱ
ぢゅぱ

んっ♡
んぁ♡
んっ♡
それでお土産は何がいい？
そ、そうだなぁ
ちゅぱ
ちゅぱちゅぱちゅぱ
ぢゅぷ
ぢゅぷ
ぢゅるっ
ぢゅぷ
ぢゅぷ
ぢゅぷ

キーホルダーとか
お菓子とか…
ふりかけとかさ…
んー
やっぱり一人暮らしだと
食べられるものが良いかな？
んーー
私も食べられるし…
えへへ
どぷんっ
ぶぶッ
あぁぁ…っ！

…あれ？　陽太くん？
もしもし聞こえてる？
き、聞こえてる
はぁはぁ
んふぅ♡
はぁ…♡
お菓子でも…
ふりかけでも…
そうだ、な…小冬と一緒に
食べられるものでいい…
小冬が食べたいと
思ったもの…
買ってきてくれよ
ドクドク
ビクッ
ビクッ

うんっ
わかった！
ああっ♡
あっ、ごめん！
そろそろ消灯時間なの…
トロォォー
はぁ♡
お土産楽しみにしててね！
それじゃあっ！
はぁはぁ
ビクッ
……

ふふっ
バレなくて良かった
すっごい量…
いつもこんなに出しちゃうの？
はぁ♥
まだおち●ち●
ギンギンだし…
もっと抜いて…
きゃっ！
ふぅっ♥
がばっ

ドクン
夏美の身体を
お姫様だっこで持ち上げる。
口内を精液で満たされた夏美を見て
衝動的に身体が動いていた。
ドクン
ドクン
一度射精したくらいでは
俺の性欲は勢いづくだけ…
夏美を抱えて向かった先は
寝室…ベッドの上だ。
どさっ

ちょ、ちょっと…
陽太、目が怖いわよ
鼻息も荒いし…
あわあわ
はぁはぁ
お前が誘ってくるような
真似するからだろ！
もう…
我慢できない…！

俺の理性はギリギリだった
このまま挿入したいという衝動を
辛うじて抑えている状況だ。
ドクン
ドクン
夏美が強く拒絶するようなら
まだ俺は留まることができた
だが、こいつは…

…陽太の好きにしていいよ

ぼんっ

っ！

夏美は許してしまった。

ドクン

そうなってしまってはもうこれ以上踏みとどまることができない。

ゴムを手早くつけると下着を脱がせて足を開かせる。

ぐい

…挿れるぞ？
うん…
ビクッ…

ん…♡
んああっ!

一気に奥まで入っちまった…
夏美のマ●コメチャクチャ濡れてるぞ？
ぐぷぐぷ
ばぁ
ばぁ
あぁ
ビショビショだ…
おっぱい揉まれてこんなに濡れたのか？

それもあるけど…
フェラしてあげてる時も
興奮しちゃって…
ぐちゅ
ぐちゅ
んんッ
陽太のおち●ち●から
すっごくエッチな匂いがしてさ
んっ
それより…んっ
おま●この感想…
それだけ？
気持ち、良い…？
はぁはぁ

はぁ
んっ
もっと…動くぞっ
ヒダヒダが絡んで…くうっ
はぁはぁ
すんなり入ったと思えばマン肉がチ●ポを締めつけて
気持ち良い…
はぁ…
ヂュプ
ヂュプ

そっか…
気持ち良いんだ
私のおま●こ…

私も気持ち良いよ♡

はぁ

癖(くせ)になりそう…
あんっ♡

はぁ
はぁっ

陽太のおち●ち●が
おま●こ掻き回す感覚…

ぐちゅ
ぐちゅ♡
じゅぷ
じゅぷ

夏美のそんな声
初めて聴いた…

めっちゃエロい…っ！

ギュポッ♡

ギュポ

じゅぽ♡

じゅぽ

クスクス

鈍い男め…
ほら…もっと腰振って…
んんっ♡

んん

わ、私のエロさに…
ようやく気付いた…？

ああっ
だけど…
ここからは何があっても
射精するまで
止められないからなっ！
いいよ…っ！
はっ♡
はっ♡
ぐちゅ
ぐちゅ
ぎゅぽ
ぎゅぽ
じゅぽ
じゅぽ
ぐぐ
ぐぐ
ぐぐ
射精するまで
おま●こ突きまくってっ！

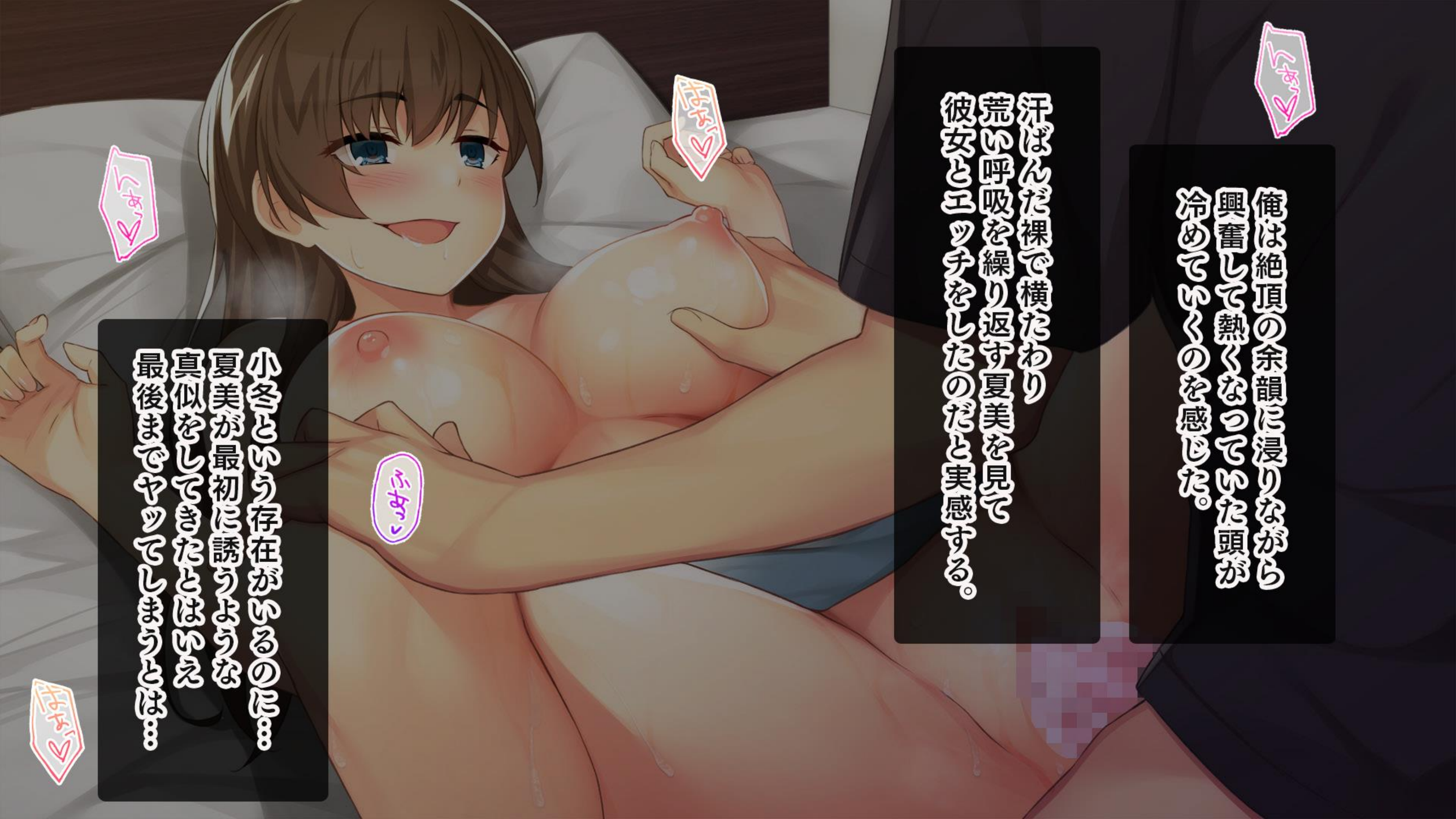
んんっ…ああっ！
敏感なとこっ
何度もあたって…
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
じゅぷ♡
じゅぷ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
あっ♡
はっ♡
あっ♡
あっ♡
もう…イキそうっ！
はぁはぁ…夏美っ

小冬とするセックスとはまるで違う。
別人なのだから違うのは当たり前だが
得られる快感がまったく違った。
まるで俺のチ〇ポのために
作られたかのような心地良い膣内
強烈な快感が押し寄せてくる。
あっ♡
ぎゅぽ♡
ぎゅぽ♡
ぎゅぽ♡
ぎゅぽ♡
じゅぽ♡
じゅぽ♡
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

ドピュッ
ビクッ
ビクッ
ああぁぁぁ♡

んあっ…あぁ…♡
精液っ
ゴム越しでも…熱いっ♡
ドクドク
はぁ♡
はぁ♡
ぞくぞくぞくぞくっ
はぁはぁ
いっぱい出て…っ
ゴムどんどん膨らんでぇ
んんんんっ♡

はぁはぁ…♡
全身に…火がついたみたいに熱くなって…んあっ♡
ビクッ♥ビクッ♥
ぷよ♡
ぷよ♡
溶けちゃうかと思った…こんなエッチ初めて…♡
んんっ♥
んあッ
陽太ってエッチ上手いんだね…


いあっ♡
俺は絶頂の余韻に浸りながら
興奮して熱くなっていた頭が
冷めていくのを感じた。
はぁ♡
汗ばんだ裸で横たわり
荒い呼吸を繰り返す夏美を見て
彼女とエッチをしたのだと実感する。
いあっ♡
ふぁっ♡
小冬という存在がいるのに…
夏美が最初に誘うような
真似をしてきたとはいえ
最後までヤッてしまうとは…
はぁ♡

その…悪い
？どうして謝るの？
キョトン
いや…さすがに最後までしたのはマズいだろ？
ベッドに押し倒されて迫られたら拒絶なんてできないだろうし…

何言ってんの？
嫌だったら押し倒された時点で
ぶん殴ってるよ
あはは。
エッチは
私もしたかったからで…
あー…
カミングアウト
しちゃうとさ
私、陽太のことが
好きなんだよね

は？
夏美が？　俺を？
そうそう
入学後の学科のガイダンスで
初めて顔を合わせた時から…
あーはっ
一目惚れってやつ？
それで少しでも
一緒にいたいと思ってさ
できるだけ
同じ講義を受けてたんだけど…

小冬が告白して…
二人が付き合うことになって
一度は陽太のこと
諦めようとしたの…
でも、好きって気持ちは
変えられなくてね
恋人になれなくても
一緒にいたいと思って
陽太の傍に居続けて…

そんなわけで
陽太とエッチできたのは
嬉しかったし気持ち良かった！
はははっ
だからさ
謝らなくていいよ
……
突然の告白に対して
俺はどうしたらいいのか
分からなかった。
気まずい空気が流れる…
と思えば、いつもの軽い調子で
夏美が話しかけてくる。

ねえっ
ちょっと提案なんだけど…
小冬がいない間さ
私が恋人になって
エッチの相手してあげよっか？
え？

だって小冬から聞いてるよ？
ふふっ
一回射精したくらいじゃおち●ち●小さくならないとか
エッチが激しくて一日一回が限界とか
小冬とこれ以上エッチするのが無理ってわかるとトイレに行って抜いてるとか…

おいおい
俺たちの性事情を
そんな赤裸々に
小冬は話してるのか？

ていうかトイレで
抜いてたの気付かれてたのか…

こんなこと私ぐらいにしか
話さないだろうから安心なさい

あはは。

とにかくさ
普段から小冬とエッチしてても
欲求不満なんでしょ？

この三日間は私が恋人になって
エッチの相手してあげる

い、いや
俺には小冬が…
これ以上あいつを
裏切るような真似は
すっ
小冬がいない間だけだし
絶対にバレないよ
それに…おち●ち●
そんなに大きくしてたら
苦しいでしょ？

夏美の指摘するようにチ〇ポは勃起したままだった。
ビクッ…
それも夏美のマ〇コの良さを知ったせいか彼女の提案に無意識に期待していつも以上に大きくなっているように見えた。
ふふっ…
やっぱり欲求不満なんでしょ？
三日間だけでも陽太の恋人になれるのは私も嬉しいしさ
エッチしようよ…
……

―こうして夏美は
三日間限定の俺の恋人となった。

小冬への後ろめたさはあった…
だけど三日間だけの関係だと
自分に言い聞かせて納得させた。

それほど夏美とのエッチは甘く刺激的で、
たとえ恋人を裏切る行為だろうと
その誘惑に逆らうことはできなかった。

2日目　8：53

この続きは、本編でお楽しみください！！